

もしもの時に備え
自助・共助の心がけを

防災の日である9月1日は、過去に関東大震災が起った日であり、台風が日本列島に上陸するシーズンにもあたるといことから1960年に制定された。「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」ことを目指す日とされ、防災訓練を行う地域が多い。北名古屋市では心配されている東南海地震と東海地震が同時発生した場合、市全体の51パーセントの地域で震度6弱以上の被害があり、一部の地域では液状化現象による被害の拡大が予想されている。いざ災害が発生した時適切な行動をとることはできるだろうか。

「災害時には、自助・共助」を心掛けてください」と話すのは、北名古屋市・清須市・豊山町を管轄する消防本部である西春日井広域事務組合の秋田幸三課長。自助とは、自分の身を自分で守るということ。自宅家具の転倒・落下の防止措置をしたり、非常持出袋の準備をしたりすることが自助に、

常日頃から私たちの暮らしや命を守ってくれているヒーロー達が、北名古屋市井瀬木にある西春日井広域事務組合にいます。同組合は北名古屋市をはじめ、清須市、豊山町を管轄とする消防本部だ。現在は170人強の消防士が所属。チームに分かれ24時間交代制で、いづ緊急の通報が入っても出動できるような態勢を整えている。平成12年に発生した東海豪雨で新川の堤防が決壊した時には、自衛隊や警察と共に救出作業を行ったほか、県外で発生した大規模災害の際にも緊急消防援助隊として人命救助にあたった。このような活躍を見せるヒーロー達は普段どのような仕事をしているのだろうか。

彼らの1日は消防車両の点検から始まる。「言に消防車両といってもその種類は多岐に渡り、消火栓などから水を吸い上げ放水するポンプ車、人命救助資機材を満載した救助工作車、現場で指示を出すリーダーを乗せた指揮車など用途によってさまざまある。すべてが正常なことを確認すると、走り込みや筋トレなどの体力練習やさまざまな事態を想定した訓練にはいる。出動には火災以外にも急病や負傷などの、救急出動、事故や、



もしもの時に駆けつけてくれる消防車両

巻頭特集

地域の繋がりが減災へと繋がる

9月1日は防災の日

「防災」が「忘災」になっていませんか？
いつ発生するか分からない
自然災害に備えて、今私たちに
できることを再度見直しましょう。



【取材協力】西春日井広域事務組合 秋田幸三課長

非常持ち出し袋
を用意しよう!

- 飲料水
- 非常食
- 懐中電灯
- ラジオ
- 着替え
- 筆記用具
- ハサミ/カッターナイフ
- ライター
- タオル
- ポリ袋
- ガムテープ
- 軍手
- レジャーシート
- 雨合羽
- ヘルメット
- 医療用品/常備薬
- ヘルメット
- 携帯用トイレ

西春日井広域事務組合のルーキーを直撃

植手 陽平 消防士 / **中村 圭佑 消防士**

Q、消防士になろうと思ったきっかけを教えてください。
植手「高校生の頃から夢でした。体を動かすのが好きで体力に自信があったので、消防士はそこを活かせる仕事だと思いました」

中村「小さい頃からテレビなんかで見るヒーローに憧れがありました。人を助けることができる消防士の仕事はまさにヒーローだと思います」

Q、印象に残っている体験はありますか？
中村「訓練では何度も繰り返しやります。中村「そうそう、怖いというよりも行くぞーって気持ちがいります」

Q、やはり訓練と実際の現場では違うんですね。現場で足がすくむことなんかもあるんじゃないですか？
中村「植手」ないですね！
植手「アドレナリンが出ているのが分かります」

Q、消防救助技術大会とは？
消防救助技術大会とは、消防救助技術の高度化に必要な基本的要素を磨き出すことを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の機関と連携した消防救助活動を推進し、全国市民の消防に寄与する目的に力強く取り組むことを目的として開催される大会。

そんな息が切ったりの2人は、7月26日に三重県で行われた「消防救助技術東海地区大会」(ロープ応用登はんへ出場。健闘の結果、愛知県4位)へ。来年はさらに上位を目指して頑張ってください!

日々の訓練が災害時の活動力を高めていく



日々の訓練が災害時の活動力を高めていく



あたる。また子供がいる家庭では、通学経路での危険場所の把握を子供と一緒に歩きながら行い、緊急時の待ち合わせ場所を決めておくことで、家族の安全にも繋がる。自身の安全が確保できたら行いたいのが、共助。である。共助とは、町内会や自治会などの小さな地域コミュニティ単位で助け合いをする体制を構築することという。「日頃から近所の人と挨拶やちょっとした会話を交わすといった基本的なコミュニケーションをとることも大切です。実際に震災が発生した際の救助者の80パーセント以上が近隣住民によって助けられていたという例もあります」と秋田課長。さらに、「いざという時のために、近所の子供達や高齢者がいる施設や家庭を把握しましょう。そして、市町村単位で年に1度行われる防災訓練や水防訓練、地域ごとに行われる心肺蘇生訓練や消火器取扱い訓練などへは積極的に参加してください」と続けて促す。

地域を守るヒーロー達
西春日井広域事務組合

大きな災害時はもちろんのこと、

建物に閉じ込められ、救助出動、報知音などが反応した。警戒出動があり、昨年はおよそ6、900回の出動があったという。出動要請が署内に響き渡るや否や、即座に出動準備をし、真剣な顔つきで出動していく消防士たちに頼もしさを感ずる。

「現場では我々は最善を尽くしています。市民の皆さんももしもの時に備えてできる、自助・共助を再確認ください。」と秋田課長は呼びかける。今自分自身にできること、そして地域でできることを日頃から意識して生活していきたい。